

令和7年度 埼玉県小・中学校国語教育研究発表大会 発表資料

新座市立大和田小学校

教諭 安瀬 崇史

1 研究主題

読みの力を生かして主体的に学び、深めようとする児童の育成

2 研究概要

（1）児童の実態

- ・学力的には、県や全国の平均を上回っている。
- ・学習する際に、自分から意欲をもって学ぼうとすることが少ない。
- ・やらされている学習をしているという態度が見受けられる。

→学びの主体性に課題がある

○目指す児童像

自分から課題を見つけ、学びを深めていくことができる児童

（2）主題設定の理由

主体的に学ぶためには、学ぶことが楽しいと思えるようなゴールがあること、国語が「わかる」「できる」と感じられること、そして国語の力がついたことを実感でき、次の学習に生かせることを実感できることが重要であると考えます。そのために、読みの力を身に付け、それを生かすことで主体的に学び、深められる児童の育成を目指し、主題を設定しました。

自分の力で読んだことについて様々な考えをもったり、学び合って新たな考えに気付いたり、新たな課題を見つけたりと、自分たちの読みの力を生かし学ぶことができること、そして学んだことを次の学びへ生かし、より深く学ぼうとすることができる児童の育成を目指した。

○読みの力とは

- ・学習用語の意味を理解し、活用できること
（事例、筆者の考え、要点、要約、要旨、物語の基本構造、中心人物、重要人物 など）
- ・何に注目するか理解して読み進めること
（叙述、心情の変化、筆者の考え、事例の使い方、筆者の論の進め方 など）
- ・登場人物の心情の変化や筆者の考えについて、叙述を基にした自分の考えをもつこと
- ・協働的に学ぶことで、友達の考えのよさを見出し、より深い考えに至ること
- ・学んだことを次の学習や、生活に生かそうとすることで深い学びへ向かうこと

（3）主な手立て

【手立て1】 題名読みの活用

単元の導入で、題名やリード文から内容を想像したり、疑問を出したりすることで、教材文に対して問題意識や目的意識、意欲をもって初読できるようにする。また、児童の実態に応じて、物語の背景などの補足説明を必要に応じて行い、作品の世界に入り込めるようにする。

【手立て2】 課題設定の工夫

単元の導入で、教材文の筆者が著作の「ざんねんないきもの事典」「日本の固有種」を提示し、固有種に対する興味関心を喚起する。そして、固有種と自然環境を守るためにどうすればよいか、統計資料を用いて自分の考えを書き表すという単元のゴールを示す。ゴール達成のためには、「固有種が教えてくれること」から自分の考えの書き方、統計資料の使い方、資料を使うことの利点等を読み取っていくことが必要であることをつかませ、教材文の学習に必要感と目的意識をもたせる。

【手立て3】「数を数える」「一番を選ぶ」工夫

高学年の説明文は内容が難しく、よく分からないという印象をもつ児童が多い。そこで、誰でもできる「数を数えること」と選択肢の中から理由をもって「一番を選ぶ」手立てを行う。例えば、段落の数を数える、使われている資料の数を数える、資料は何種類かを考える、一番大切な資料は何か（または必要のない資料）等を理由と共に考えさせることで、どの児童も自分の考えをもち、学び合うことができるようにする。また、選ぶことでそれぞれの意見を比べやすくなり、全体としての意見をより分かりやすく整理することができる。

【手立て4】 バッドモデルを示す工夫

書くことにおいて、単元のゴールのモデルを児童に示す際、理想的なモデルを示してそれを基に書かせると、文型はそのままに、単語を変えたのみで書き上げてしまうことが考えられる。これでは、児童が文章構成を工夫したり、読み手に伝わる書き方を工夫したりするのに、自分で思考したとは言えない。そこで、モデルとして50～60%の出来具合のものをバッドモデルとして児童に示す。「これはダメな（今一步な）例です。みんなはこれより良いものを書いてみましょう」と声掛けをすることで、より良い文章を書くためにはどうすればいいか、自分なりの工夫を凝らした文章を書くことができる考える。

ぐったりしていたごんは、実は生きていたのです。兵十はうってしまったことをごんにあやまりました。ごんはいたずらしたことを兵十にあやまりました。それから二人は友達になって、仲良くなることができました。

お話を書き無しにしないようにしよう。↑

- ごんは生き返る？↑
- ごんと兵十は話をするの？↑
- うってしまったことは無かったことにはできない。↑

○その後、兵十はどうしたかを考えてあとばなしを書こう。↑

ごんの話をだれかに伝える？↑

お父さん

お父さんかたんだよ。お父さんは、ゆみ子さんのことを高い高いをし遊んでくれたんだよ。ゆみ子さんは、覚えていないと思ってるけど、食べ物や毎日お父さん、お母さんから「すつち」を聞いていたんだよ。お父さんが戦争にけとどき、お父さんのおにんぎょうを全てゆみ子さんにあげてくれたんだよ。

お父さんのしたことを書かないようにしよう。お父さんにはどんな思いがあったのかな。

【手立て5】 個別最適な学びの充実

ペアやグループ、一人で考えるなど、学習の仕方に複数の選択肢を与え、自分に合った学習方法で自身の学びを充実させることができるようにする。

2 授業実践

(1) 概要

単元名 資料を用いた文章の効果を考え、それをいかして書こう

教材名 「固有種が教えてくれること」「自然環境を守るために」(光村図書 5年)

○言語活動について

固有種に関連付けた生物多様性について焦点を当てた意見文を書くことを単元のゴールにする。教科書では自然環境の保全が例示されているが、本校では1学期の総合的な学習の時間で環境問題についての題材を扱っている。内容が重ならないようにするためと、学習意欲をより喚起させるために、固有種を含めた生物を守るためには、どのような環境保全が必要か、自分たちに何ができるかを書かせることで、生物多様性を身近な問題として捉え、書くことができるようにする。

第一次 固有種について知り、単元のゴールと学習計画を立てる。

第二次 「固有種が教えてくれること」から、筆者の説明と資料の活用の工夫を読み取る。

第三次 資料集めから清書まで、誰と、どのように学んでいくかを選択し、学習を進める

第四次 書いた文章を読み合い、感想を伝え合う

(2) 指導の実際(全11時間)※主な部分について記述

①単元の導入

- ・題名読みの後、全文を通読し、初発の感想を交流する。
- ・自分の問いをもち、交流する。
- ・単元のゴールを知り、学習計画を立て、見通しをもつ。

(1/11時)

【手立て1 題名読みの活用】

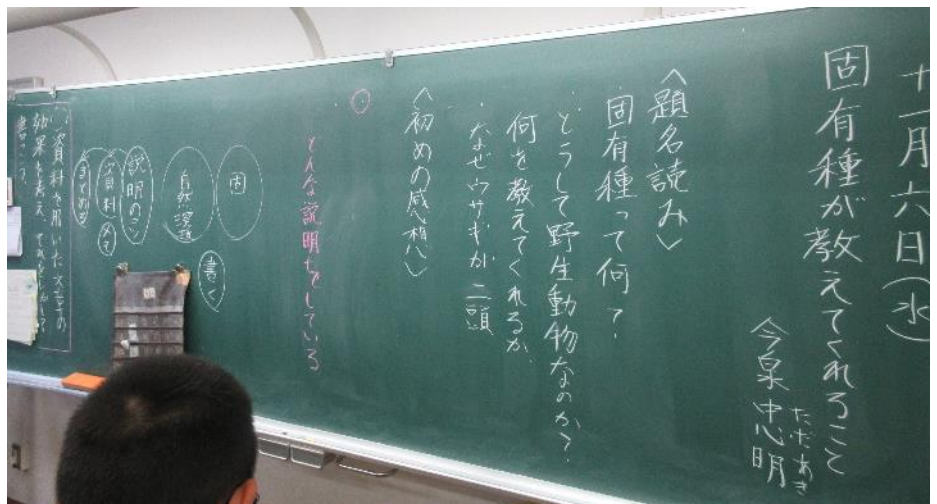
・題名を見て、疑問に思うことはあるかな。

固有種って何？

どうして野生動物なのか？

何を教えてくれるのか？

なぜ表紙にウサギが二頭いるのか？



【手立て2 課題設定の工夫】

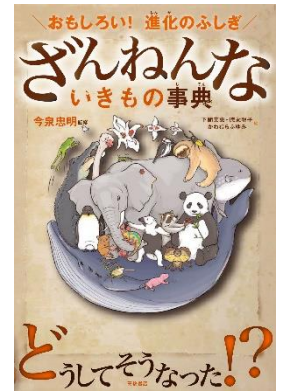
- ・初発の感想(初めて知ったこと、考えたこと 等)を書き、その中から一番(自分の問い)を選ぶ。
→それを筆者はどのように説明しているか？
- ・筆者の説明のしかたはどうだったか？ある工夫があるけど・・・
→資料がたくさん使われている。資料の使い方、事例などが工夫されている。

・作者について

作者の今泉忠明氏は、多くの著書がある。動物についていろいろなことを知っている先生である。

説明のプロが書いた文章。(著書を紹介する)

日本には様々な固有種がいることを、著書を用いて紹介する。



・ゴールについて

→自然環境の変化によって、固有種などの絶滅や減少、生物にとっての危機が起きている。環境問題は、例えばどのようなものがあるか？固有種を守るためにはどうすればよいか？

→固有種や個体数が減少している動物を自分で決める。それについてどのような状況か、環境問題とどのような関わりがあるのかを調べ、どのような取り組みが必要か、資料を使って自分の考えを書き表せたらゴール

・資料を使って自分の考えを書く、そのために必要なのは？

資料集め、書き方 資料の使い方、説明の仕方 (児童の意見を基に大まかな学習計画を立てる)

→文章からこれらを読み取り、自分が書くときに生かせるようにしよう。

→固有種に関する並行読書の紹介



②内容の大体を捉えて小見出しをつくり、文章構成をつかむ。

(2 / 11時)

【手立て3】 「数を数える」「一番を選ぶ」工夫

・この文章で筆者が一番言いたいことは何だろう？それが分かれば、筆者の考え(一番伝えたいこと)が分かり、その考えを伝えるためにどのような書き方の工夫をしているのかも分かる。

・一番言いたいことが何かをつかむためにはどうすればいいか？筆者の考えはどこにあるのか？

→文章の型が何かを見つけること。サンドイッチ型？それともそれ以外か？

・今日は、筆者が一番言いたいこと(筆者の考え、要旨)は何かをつかむために、文章構成を明らかにできたらゴールです。

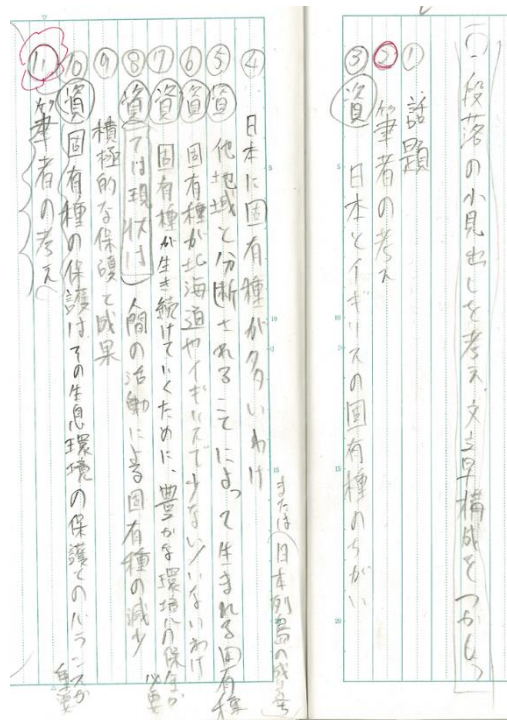
① 段落はいくつか？資料はいくつあるか？資料がある段落は？

→記号、小見出しをつける。資料のところ以外でもできる人は小見出しをつける。友達と一緒に考えてもよい。考えたものは黒板に書いてもよい。【手立て5】 個別最適な学びの充実)

②残ったものは何なのか？一番言いたいことは？どこにありそうか？

③比べてみる。はじめと終わりで、同じことを言っているか？

→この文章は、サンドイッチ型



③筆者の考えを基に要旨をまとめる

(3 / 11時)

【手立て4】 バッドモデルを示す工夫

・双括型の確認

要旨とは文章全体で筆者が一番言いたいこと。
それが分かれば筆者の説明の仕方、資料の使い方も見えてくる

・バッドモデルの提示 (感想が混じったもの)

→では、自分だったらどこをまとめるか？アマミノクロウサギが一番言いたいことか？

→言いたいことは、筆者の考えの中にある

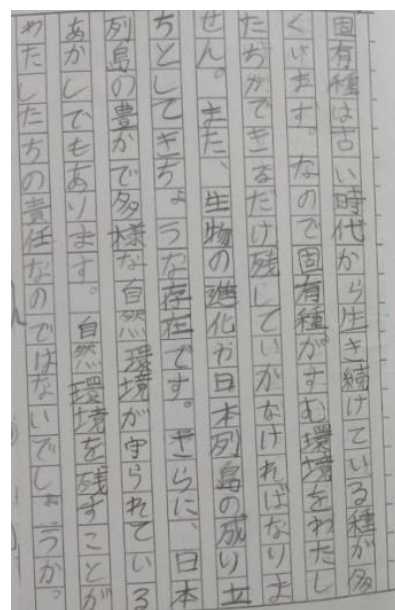
・引用すること

この文章はサンドイッチ型。初めと終わり、どちらの筆者の考えがより大切か？

同じことを言うが、後の方がより強い主張になっている。

これは感想！

固有種が教えてくれることは、生き物が大切だということが分かりました。ぼくも、生き物を大切にできるようにしていきたいです。



④筆者が資料をどのように活用しているのかを捉え、書くときの資料の使い方の要点をつかむ。

(4 / 11時)

【手立て3】 「数を数える」「一番を選ぶ」工夫

・筆者が自分の考えを伝えるために資料をどのように活用しているのか、そして自分が書くときにこうすればいい、ということが分かればゴール。

・資料1～7までありますが、この中で絶対に必要なものはどれだと思いますか。

読者として読んでみて、こ

れは必要だと思ったもの、これがあるから筆者の言いたいことが伝わった、分かりやすかった、というものはどれでしょうか。

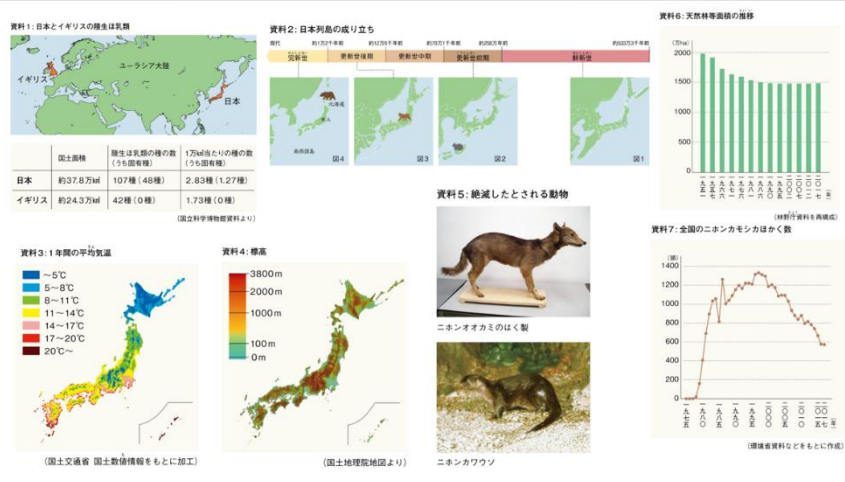
・この中で、なくてもいい資料はどれでしょう。

→なぜ筆者はその資料を使ったのか？

→誰に伝えようとしているのか？（読者） うまく伝えようとしているのは誰？

→書き手としての工夫がある

・資料を使うことで、読み手側と書き手側で、どのような効果がありますか。



⑤筆者の考えについて、自分がどう考えるかを納得度で表し、友達と交流する。

⑥自分が選んだ本の感想や、資料の使い方、説明の工夫でよいと思ったところを伝え合う。

(5、6 / 11時)

・納得度は%で表す。筆者の考えに対してどの部分が納得したかを書く。

・疑問や分からない部分があれば納得度は下がる。その場合はその理由を書く。

(例1) 納得度90%

90%にした理由は、日本にしかない固有種は絶滅してしまうと二度と見れなくなってしまう、だから日本にぐらすわたしたちがこの日本の環境を守らなければならないということが90%。残り10%は日本に住んでいても何もできないことだってある。日本の森林などを守るために何をすればいいのかが分からないと思ったので10%は疑問でした。

(例2) 納得度71%

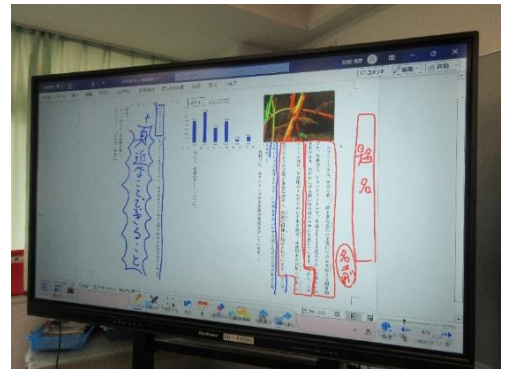
確かに固有種が住む日本の環境を残していくことは動物にとっても人間にとってもいいことです。そしていなくなってしまうと二度と会えないからです。ですがぼくは地球温暖化などの環境をみんなが住みやすい日本にしていけることも大事だと思います。ですから動物が自由に動いたら人間に負担があるし、人間が自由に動いても動物に負担がある(住む場所がなくなる)ので、みんなが住みやすいように協力することも大事だと思います(自分勝手な行動をしない)。なので納得度は71%で疑問が29%です。

- ⑦固有種や生物多様性に関する問題をつかみ、自分の関心のある題材についての統計資料を集める。
- ⑧「初め」「中」「終わり」と双括型の文章構成に沿って、どのような文章を書くか構成メモを書く。
- ⑨⑩構成メモを基に、資料を活用して文章を書く。

(7～10/11時)

【手立て4】バッドモデルを示す工夫

- ・統計資料の扱い方を示した後に、文章構成の大枠を記したバッドモデルを提示した。
- ・資料集めと下書きはロイロノートで行う。
- ・資料を集める際は出典を必ずメモする。



◎はじめ

- ・固有種についての説明と現状
- ・固有種を守るために、どのような取り組みが必要と考えるか (自分の考え)

◎中1 (資料1)

- ・固有種の現状についての資料

◎中2 (資料2)

- ・自分の考えを裏付ける資料

◎おわり

- ・自分の考え、まとめ

以上のことから、ムサシトミヨを守るために、川の水をきれいにする取り組みが大切であると考えます。

（参考）
 ・ウェブサイト「武蔵野新報」
 ・ウェブサイト「彩の国 埼玉」

資料1
 ムサシトミヨの生息数調査結果
 (埼玉県環境科学国際センター調べ、単位:頭)

年	生息数
1996年	24,611
2002年	33,510
2006年	15,797
2011年	22,605
2016年	2,345
2021年	4,754

統計②を見てください。

資料①は、ムサシトミヨの生息数の変化を示しています。

ムサシトミヨは、世界で唯一、埼玉県熊谷市の元荒川でのみ生息する固有種です。体長は3.5センチメートルで、水温10～18度のきれいで冷たいわき水があり、水草がしげる細い川の流れの中に生息しています。しかし、ムサシトミヨは、生息地のうめ立てやわき水の枯渇、生活排水の河川への流入などにより生息数が急激に減少し、絶滅危惧種に指定されています。ぼくは、ムサシトミヨを守るために、川の水をきれいにする取り組みが大切であると考えます。

- ・資料1、2はどちらかでもよいが、自分の考えの根拠となるものを示せると説得力が増す。
- ・友達と相談しながら進めてもよい。どこで、どのように誰と学習を進めるか選択する。

【手立て5】 個別最適な学びの充実

- ・初めに統計資料の扱い方と、バッドモデルを示した後、資料集めから清書までを自分たちで進められるようにした。誰と、どのように学ぶかを選択し、各自で学習を進めた。
- ・質問があれば教師に聞いたり、下書きを見せに来たりする児童もいた。
- ・普段手が止まる児童や学習に前向きでない児童も主体的に取り組んでいた。

⑪書き上げた文章を友達と読み合い、よさを伝え合う。単元の振り返りをする。

(11 / 11時)

アキアカネを守るために

アキアカネは北海道・本州・四国・九州に生息する日本固有種です。体長は33〜46ミリメートルで夏にかした成虫は平地やきうなうちの池、近隣の山などへ移動して生息しています。赤とんぼと呼ぶこともあります。しかしアキアカネは今卵や幼虫の時期は田んぼなどで過ごします。そのときに田んぼの稲作に用いる殺虫剤のえいぎょうで減少していることが大きいと考えられます。なのでアキアカネを守るために殺虫剤をできるだけ使わないことが大切だと思います。

左のグラフはアキアカネの観察値(●)と推定値(予想した数字○)を示しています。このように見るとアキアカネは田んぼなどで使われる殺虫剤や水田の乾田化(水の調節などができこや中干し)のぬいて土にじじが入るまで乾かす作業が原因とされてきたがアキアカネの目立った減少が2000年から始まり、減少程度に地域差があることを考えると90年代後半からふきうはいめた稲の育苗箱(小さなえを育てるための箱)に用いられる殺虫剤が原因になりました。

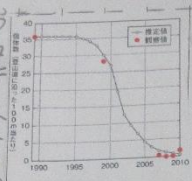



図1: 白山山系におけるアキアカネの観察値(●)と推定値(○)を示すグラフ。90年代後半から減少傾向が見られる。殺虫剤の使用や水田の乾田化が原因とされている。



以上のことからアキアカネを守るために殺虫剤をなるべく使わないことが大切だと思います。自分たちは農薬が使われていない米や野菜などを食べることがアキアカネを守る取り組みだと思います。

出典
文海川の生物多様性を知ろう
監修 木林章(東京大学先端科学技術研究センター教授)
日本自然保護協会の会報「自然保護」2012年10月号「新生命の輪」にけいさいしたものです。
しげんせん
アキアカネこん虫おかんWebサイト

3 成果と課題

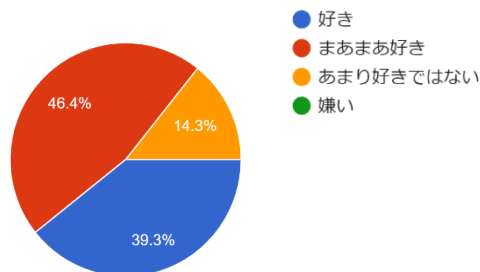
〈授業について〉

- 固有種について関心をもち、調べたことを自主的にノートに書く児童が多かった。
- 構造と内容の把握や精査、解釈の段階で、児童の多様な考えを引き出せるような授業展開をすることができた。答え合わせの国語になることなく、「わかる」「できる」に近づけたのでは。
- 資料の選択ができるためには前提として筆者の主張の理解がないとできない。児童は自分の考えに根拠がある、十分な読み取りができていた。
- 書く際には友達と一緒に考えながらやったり、相談したりしながら進められるようにした。教師が全てを添削するのではなく、自分たちで考え、得られた知識を活用して書くことで学習内容がより身につくと共に、児童自身が学習の調整をしようとする様子も多々見られた。
- △「絶対に必要な資料」は、結局これが必要だった、と児童が分かるように方向づけられるとよいのでは。
- △「この中でなくてもいい資料は」は、「この中でなくてもいい資料はない」と答える児童もいた。やるならば、「この中でなくてもいい資料はある?」「資料5」「なぜ筆者は資料5を使ったのだろう」とすると答えが明確になるのでは。
- △資料がうまく見つからないことがあり、現状や直面している課題についてうまく書けなかったり、見つけた資料ありきで自分の主張を構成したりすることも見られた。教材開発の段階で工夫が必要である。

〈研究主題について〉

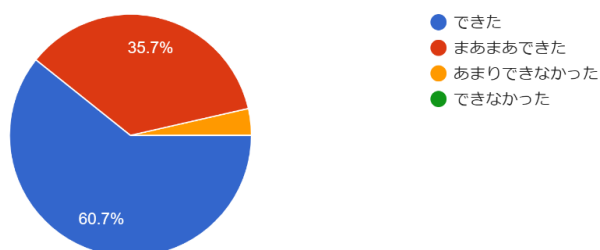
授業後のアンケートより、成果と課題を考察した。記述式のものは何点か抜粋した。

国語の学習は、好きですか。
28 件の回答



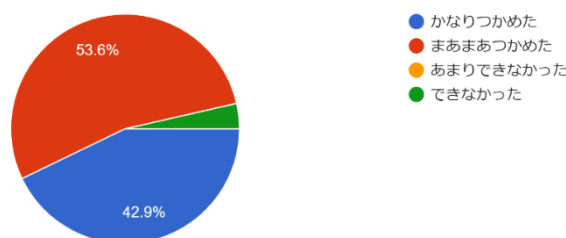
・「好き」「まあまあ好き」が85.7%だった。「あまり好きではない」は4人で、理由は「漢字が苦手」が3人、「文章を読むのが苦手」が1人だった。読むことや書くことについての苦手意識はあまり見られず、これまでの指導の成果と見ることもできるかもしれない。

筆者の考え（主張）は何か、読み取ることはできましたか。
28 件の回答



・1学期に見られた、要旨を感想文のように書いてしまうことは少なくなった。文章構成をよりよく把握できたことと、要旨のバッドモデルを示して見通しをもたせたことに効果があったように思える。

資料を使うと、どのような効果（いいこと）があるのか、つかめましたか。
28 件の回答



・本時に行った資料の活用の仕方についての学習内容と、情報を精査することが身につけているように感じられる。「資料を使うと分かりやすくなる」だけでなく、読者として、筆者としてどのような効果があるかを考えたことが効果的だったのではないかな。

◎説得力のある文章を書くために、どのような工夫をしましたか。

- ・資料の出す場所や資料の種類やデマ情報に気を付けた
- ・自分の考えを最初に書いて、最後に詳しく自分の考えを書くという文章の構成を工夫した。
- ・主張と根拠、そして資料を使うことで読者への説得力が増しました。資料の使い方もこの資料は何のことなのかをくわしく書けました。
- ・読者がどのように考えるのか、自分が読者だったら・・・と考えました。
- ・資料を使って説明することや自分の体験を入れてより読者に納得させるように工夫しました。

◎「固有種が教えてくれること」の学習で、一番身についたと思うことや、一番学んだと思ったことを書いてください。

- ・私は、文章を分かりやすく伝わりやすくすることです。理由は、この学習で友達からアドバイスをもらったりしたからどうしたら分かりやすくなるか伝わりやすくなるかが分かったから。
- ・資料を使うことのよさを知ることができた。これから文章に生かそうと思う。
- ・文章の構成を変えるだけで自分の考えが伝わることが分かった。
- ・資料を使うことの大切さ。理由は、これまでは、そこまで資料をつかうことが大事だとは思ってなくて、使ったら、どれだけ大切なのかが分かったから。
- ・（その他、固有種の大切さや環境を守ることも多数）

・上記より、書くことについての充実と、読むことを生かして書くことができたと振り返った児童が多かった。その他、固有種について関心を深めた児童も多かった。このことから、「分かる」「できる」学びと、「より深く知りたい」という学びの姿勢の二つが喚起できたのではないかな。

〈今後の課題と考察〉

- ・書くことについて、指導が充実しなかった場面が所々あり、教材開発の不十分さが感じられた。言語活動に至るために、各学習段階でどのようにゴールにつなげるかを計画できる能力を磨きたい。
- ・委ねることはコンピテンシーを身に付けるためには必要なことではあるが、望んだ学習成果が得られるとは限らない。書くことの成果がうまく表れなかった児童もいた。委ねるばかりで自習のような形になる学びの形態は、自分が目指すところとは異なるので、コンテンツとコンピテンシー両方を身に付けられるような指導法を模索したい。
- ・環境問題やSDGsに関わる課題（ゴール）は学習者の意欲を喚起しやすいのではないかな。
- ・学んだことが社会に役立つ、または社会的に意義のあること、自分が価値のあるものだと考えること（価値の実現について学ぶこと）は探究的に学ぶための動力源となるのでは。